

令和 6 年度使用

小学校用教科用図書研究資料

理 科

教科用図書南那珂採択地区協議会

Ⅰ 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点Ⅰ〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 問題解決の段階の中で「のばそう！理科の力」を設定し、各学年で重点的に育成する問題解決の力を確実に育成することができるよう工夫されている。また、「広げよう！理科の発想」を設定し、他教科を含めた既習内容と関連付けながら学習ができるような工夫が見られる。
4 大日本	(1) 「算数科とつなげよう」などを設定し、他教科等で学んだことも生かして学習の理解が深まるように工夫されている。また、単元末で「りかのたまてばこ」や「防災」を設け、学んだことを環境保全やキャリア教育、防災教育などと結び付けて学習できるような工夫が見られる。
11 学 図	(1) 単元の導入では、「できるようになりたい」で、その単元で高めたい資質・能力をしぼって設定し、児童自身が身に付けなければならない力を意識できるように工夫されている。また、単元末では「できるようになった」を設定し、導入場面と対応させ、身に付いた力を振り返る工夫が見られる。
17 教 出	(1) 単元の導入では「学習のつながり」を設け、各学年間の関連する既習単元や発展単元を中学校まで示し、学習の系統が意識できるように工夫されている。また、「〇年のチカラ」を設定し、その学年で主に育成する問題解決の力を児童が意識しながら、学習することができるような工夫が見られる。
61 啓林館	(1) すべての単元の導入で「思い出そう」を設定し、日常生活や既習内容を振り返ることができるように工夫されている。また、問題解決の各段階を視覚的に分かるように示し、1本のラインでつなぎ、本文と分けて配置することで、児童が学習に見通しをもって取り組めるような工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 児童が理科の見方・考え方を働かせながら問題を科学的に解決できるように、各場面で主に働かせる見方・考え方を、青枠で囲んだり、キャラクターのセリフで思考や表現の例を示したりしている。また、「1年間をふりかえろう」で、身に付けた見方・考え方を確認できる工夫が見られる。 (2) まとめの文章は箇条書きにしたり、すべて振り仮名をつけたりして児童が知識・技能を確実に習得できるようにするとともに、単元末の「たしかめよう」では、学力調査の枠組みに沿った問題を用意することで、生きて働く「知識・技能」の定着を図ることができるような工夫が見られる。 (3) 単元導入において、事物・現象の比較を通して対話し、他者とかかわりながら、問題意識を高める場面が設定しており、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
4 大日本	(1) 児童が理科の見方・考え方を働かせながら問題を科学的に解決できるように、各学年の巻頭に理科の考え方を意識するきっかけとなる見開きを設定している。また、問題発見や考察の場面では、理科の見方につながる着目点として、「ココに注目」を設け児童自身で見方を働かせる工夫が見られる。 (2) 巻末の「〇年までの学びとつなげよう」では、下位学年と当該学年の学習内容の関連を示したり、複数の単元の学習内容をまとめた「学びをリンク！」で関連を確認できるようにしたりすることで、生きて働く「知識・技能」の定着を図ることができるような工夫が見られる。 (3) 問題設定の場面における「ココに注目」では、事物・現象をとらえる視点が示してある。その視点をもとに他者との対話を通して問題を焦点化する設定となっており、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。

11 学 図	(1) 児童が問題を科学的に解決できるよう、巻頭に理科の見方を領域ごとのゴーストで表すことで、具体的な見方も示している。また、学年で働かせる考え方も示され、本文中でも、キャラクターにこれらの考え方を意識した発言をする工夫が見られる。 (2) 「ふりかえろう」の活用場面で身近な内容に置き換えて説明することで、知識・技能の定着を確かなものとする工夫がなされている。器具の使い方では注意点を多くの写真等で示し、理解しやすくすることで、生きて働く「知識・技能」の定着を図ることができるような工夫が見られる。 (3) 観察・実験後に考察の視点が端的に整理して示されている。その視点を基に個人思考を行ったり、他者との対話を行ったりすることを通して結論を導く構成となっており、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 児童が理科の見方・考え方を働かせながら問題を科学的に解決できるように、巻頭に「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」を設け、考え方を話型で示している。また、見方・考え方を働かせている児童の発言例に「見方のカギ」「考え方のカギ」のマークを付ける工夫が見られる。 (2) 第4～6学年の巻頭に、「〇年で学んだこと」を設け、児童が前学年で習得した知識をいつでも繰り返し用いることができるようにするとともに、「確かめよう」では関連するページの該当箇所を具体的に示すことで、生きて働く「知識・技能」の定着を図ることができるような工夫が見られる。 (3) 観察・実験の結果をもとに考察する場面では、キャラクターを活用して予想や検証方法の妥当性を考える場面が設定しており、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。

61 啓林館	(1) 児童が理科の見方・考え方を働かせながら問題を科学的に解決できるように、巻頭の「理科を楽しむ見方・考え方」で、見方・考え方を端的に例示している。また、巻末の「理科の見方・考え方が役に立ったよ!」では、見方・考え方が日常生活でも役立つ場面を紹介する工夫が見られる。 (2) 単元導入や本文中の適所に「思い出そう」を設定し、既習事項や日常経験を確認・共通理解した上で、単元の学習を進めるとともに、単元末の「くらしとリンク」では実生活と関連した題材を扱うことを通して、生きて働く「知識・技能」の定着を図ることができるような工夫が見られる。 (3) 単元導入でパフォーマンス課題を設定し、児童自身が課題意識をもって学習に取り組み、単元の学習後に導入と同じ課題を考えさせる場面が設定されており、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
---------------	---

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 「観察」及び「実験」では、拡大した写真や絵、図が提示されており、細部や動植物のつくりが明確で分かりやすく、児童が主体的に問題解決に取り組みながら、観察や実験ができるような工夫が見られる。
4 大日本	(1) 単元の導入は見開きで構成し、学習問題を見いだすページを設け、生活経験を基にした児童の気付きや吹き出しを提示することで、主体的に学習問題を見いだすことができるような工夫が見られる。
11 学 図	(1) 理科の見方・考え方及び育成すべき資質・能力が問題解決の各場面で「理科モンスター」として示されており、当該学年でどのような力を身に付ければよいか確認しながら学習できるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 単元ごとに学習者のモデルが設定されており、児童が主人公と自分を重ね合わせながら、学んでいく過程を通して、問題を科学的に解決していく力を自然に身に付けられる工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 理科の学習をベースに、技術やものづくり、アート、数学的な発想を組み合わせた題材を配置し、実社会での問題発見、解決に生かす STEAM 教育を紹介し、教科横断的な視点が養われるような工夫が見られる。

4 地域の願いや思い、児童の実態等

〔観点 4〕 家庭や地域と連携した学習の推進とともに、児童の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 家庭と地域の連携が図れるように、日常生活の中にある理科的現象を取り上げ、家庭で学んだことが深められる工夫がされている。また、QR コードが随所に掲載されており、学校外でも動画を見たり、問題に取り組んだりなど、楽しく学習できるようになっている。 (2) 児童の確実な基礎・基本の定着のために、単元末には練習問題が、巻末には1年間のふりかえりが掲載されている。また、単元末の練習問題には、問題と教科書の関連が示されており、自力解決できる工夫がされている。
4 大日本	(1) 家庭や地域との連携が図れるように、「りかのたまてばこ」や「サイエンスワールド」において、地域の自然の様子に当てはめて考えさせている。また、QR コードを活用すれば、学習内容や実験の様子が家庭学習も確かめることができるような工夫が見られる。 (2) 児童の確実な基礎・基本の定着のために、単元末に「確かめよう」が掲載されている。また、巻末の「チャレンジ問題」ではこれまでに学んだことを活用する問題が掲載されており、児童の理解を確かにする工夫が見られる。
11 学 図	(1) 家庭や地域との連携が図れるように、単元末の「もっとしりたい」では、自分たちのくらしに役立つ情報が掲載されている。また、夏休みの自由研究に自主的に取り組めるように、手順だけでなく題材やそれを調べるためのヒントが示されている。 (2) 児童の確実な基礎・基本の定着のために、単元末には、「ふりかえろう」が掲載されている。また、巻末には、実験器具の正しい使い方などがまとめて掲載されており、基礎技能の確実な習得を図る工夫が見られる。
17 教 出	(1) 家庭や地域との連携が図れるように、巻末のまなびリンクでは、学習に役立つ情報を家庭でも見ることができる。また、本県を取り扱った資料が多く掲載されており、児童の興味・関心をもたせることができる。 (2) 児童の確実な基礎・基本の定着のために、単元末に「確かめよう」が掲載されており、問題数も多く、記入式になっている。また、「確かめよう」の隣には、「振り返ろう」が配置されており、自力解決できる工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 家庭や地域との連携が図れるように、「くらしとリンク」では生活の中に見られる科学を紹介し、地域素材に興味をもたせる内容になっている。また、QRコードで資料や動画を読み取り、家庭学習で有効活用できるようにしている。 (2) 児童の確実な基礎・基本の定着のために、単元末に「ふりかえろうまとめノート」が掲載されており、QRコードでまとめのチェックもできる。また、「たしかめよう」の問題に取り組むことで学習内容の定着を図る工夫が見られる。